

2022.12.17 とと道トレイルウォーク フォト報告

2018年1月以来恒例となった冬の「とと道トレイルウォーク」が2022年12月17日(土)に開催されました。今季最強の寒気団が襲来していましたが、ガイドを含め28歳から88歳まで、39名の方が成羽から吹雪の吹屋まで完歩されました(8:40発・15:10着)。



8:40 成羽たいこ丸プラザで出発式 総門橋を渡って対岸の古町へ



寒々とした成羽川



古町の古民家



古町の新張丁から見やる窓坂○



島木川沿いの道の改修工事が進んでいます



最初の急坂を登りきると見晴らし台。眼下に成羽の眺めが広がります。



堂の下の辻堂下には修理の折の説明看板が新たに設置されていました。



水道記念碑の由来を説明する成羽の徳森さん。



明治21年に2億年前の化石が出た深ダワ。



9:50 車道と合流し、次の遺構までをバスに乗って移動。



窓坂への登り道。徳森さんが事前に箒で枯葉を綺麗に掃除。



バスを降りると道遺構の山道を窓坂へ。眼下に成羽市街の眺めが広がります(○印が新張丁)。窓坂の向う側に2013年頃のルート探索の折に伐採した木の切株がありました。この木がこの一帯のとと道再開発のきっかけになりました。



窓坂を越え再びバスで宇治への山道入口まで移動。そこから山道を後谷へと向かいます。



宇治の後谷を抜け85号線に出ます。3面観音の牛馬供養碑を参拝。11:55 宇治の入口の元農協施設を改造した交流施設「麦」に入って昼食。この頃から氷雨が降り始めたので大助かりでした。



昼食のあと、宇治の屋並みを見学。その後バスで笹尾城址の対岸まで移動。そこで下車し、島木川をわたり、いよいよ吹屋への最後の登り。笹尾城址で無数の五輪塔に参拝しました。



高度が上がるにつれ氷雨は次第にみぞれに変わり、雪もちらほら降りだしました。成羽から既に5時間。メンバーは黙々と湿った枯れ葉を踏みしめながら、繰り返し現れる急坂を登って行きます。

延命寺への登りは枯れ葉におおわれた急坂。立ち枯れた木が多く、それが秋の台風等で山道に倒れかかっています。今回のウォークに先立ち地元メンバーによってその処理が行われ、スムーズに通れる様になっていました。とど道はこうした維持管理が毎年必要です。



14:00 延命寺着。成羽から5時間半。舗装道路を下り吹屋の下谷に出て、何代にもわたって銅山経営をしてきた大塚家の墓域に参拝しました。そこへ同家末裔で吹屋に住むガイドさんが現れ、一帯の由来等を懇

切に説明いただきました。墓域の前の「吹大工齋藤紋吉」という墓が印象的でした。「吹屋」とはざばり銅を製錬することを言い、その作業をする人を「吹大工」と言ったそうです。

15:10 雨は吹雪になりました。大塚坂を登り、ひっそりとたたずむ吹屋に到着。入口間近の小屋の簡単な屋根がけの下にかまどがあり、折から夕食用



(?)のみそ汁をつくり、米を炊いていました。その匂いと温かそうな火が何よりのお出迎えでした。その後町並を散策、1530 バスで吹屋をあとにしました。途中から氷雨と雪に見舞われましたが激しいものではなく。しみじみとしたウォークが楽しめた一日でした。



2022.12.17 成羽→吹屋 行動実		モード	分	
720	矢掛交流館発	バス		
735	小田発			
825	成羽美術館前着			
840	ウォーク出発	ウォーク	65	
930	堂の下の辻堂			
945	水道記念碑			
950	広域農道合流点	バス	5	
1000	窓坂への登り口	ウォーク	35	
1010	菊屋佐治郎地蔵			
1015	番所跡			
1020	窓坂			
1035	広域農道合流	バス	10	
1045	宇治への入口	ウォーク	70	
1110	後谷南山四つ堂			
1120	里道合流			
1155	宇治 麦 着(昼食)			
1230	同 発	バス	10	
1250	島木川渡橋	ウォーク	120	
1310	笹尾城址			
1400	延命寺			
1420	下谷大塚家墓域			
1510	吹屋着			
1530	同 発	バス	90	
1700	矢掛着		405	6:45